

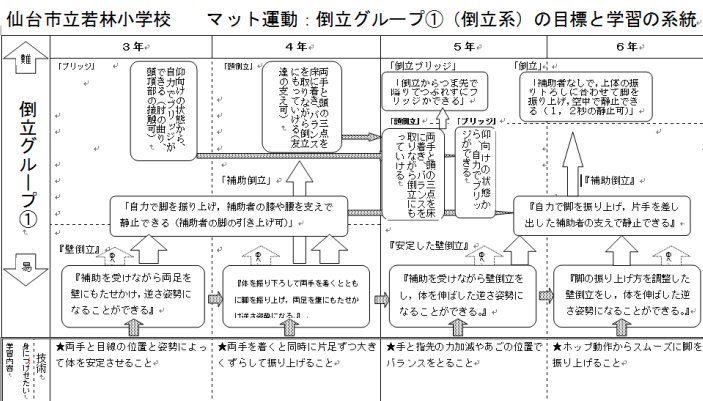
### 1. はじめに

本校では、平成24年度から仙台市の自主公開校の認定を受け、学校全体でマット運動の研究に取り組んできました。マット運動でできる喜びを味わうために、友達とのかかわりを生かすことを研究の中心において、10月の公開研究会を迎えました。

### 2. 授業を行うまでに準備したこと

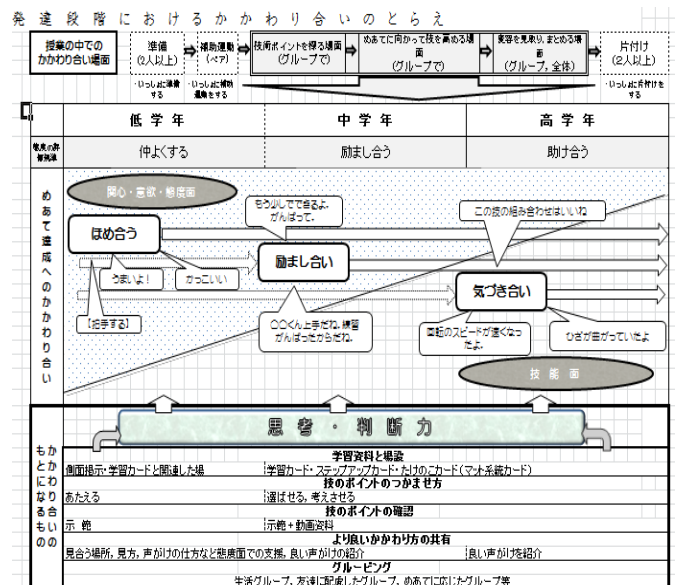
#### (1) 発達段階における系統表の作成

まず、学年ごとにどんな技を教えるか技の系統表の作成を行いました。



#### (3) 発達段階におけるかかわり合いのとらえの作成

個人で取り組むことが多いマット運動ですが、子どもたち同士の見合いや励まし合いを取り入れることで、できる喜びをより多く味わえるのではないかと考えて、「かかわり合いの学年別のとらえ」を作成しました。



#### (2) 学年ごとの評価規準の作成

技の系統をもとに評価規準も作成しました。

若林小学校 技能評価規準系統表

評価規準	低学年		中学年		高学年	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年ごとの具体① 前転系	いろいろな方向に転がることができる。手を支えた前転ができる。	いろいろな方向に転がり、手を支えて前転ができる。しゃがんだ姿勢から手で支えた前転ができる。	自分が選んだ基本的な回転技ができる。肩、後頭部、首、背中と腕に當りて回る前転ができる。	自分が選んだ基本的な回転技ができる。体を一瞬で丸め、両脚を引く前転ができる。	自分の力に合った安定した基本的な倒立技や発振技ができる。腕支持・順次接触を繰り返す前転ができる。	自分の力に合った安定した基本的な倒立技や発振技ができる。腕支持・順次接触を繰り返す前転ができる。
学年ごとの具体② 後転系	いろいろな方向に転がり、手を支えて後転ができる。手を支えた後転ができる。	いろいろな方向に転がり、手を支えて後転ができる。しゃがんだ姿勢から手で支えた後転ができる。	自分が選んだ基本的な回転技ができる。しゃがんだ姿勢から背中、首、腕に當りて回転した後転ができる。	自分が選んだ基本的な回転技ができる。しゃがんだ姿勢から体を丸めて後方へ回転し、両手の押しでしゃがみ立ちになる後転技ができる。	自分の力に合った安定した基本的な倒立技や発振技ができる。腕支持・順次接触を繰り返す後転技ができる。	自分の力に合った安定した基本的な倒立技や発振技ができる。腕支持・順次接触を繰り返す後転技ができる。

### 3. 授業の実際

#### (1) 課題解決学習における段階の設定

本校の体育科における学習の段階は以下の通りです。

- ① 知る → ② 探る → ③ わかる → ④ 高める → ⑤ まとめる

この流れを毎時間繰り返すことで、子どもたちはめあて達成に向けて、自分で進歩の度合いを感じながら、見通しを持って取り組んでいけると考えています。

#### (2) 課題の設定の工夫

本校では、「めあて」を子どもたちができるようにしたい技、「課題」を子どもたちができるようになるための必要不可欠な技能ととらえています。

例えば、倒立で言えば「課題」は腕支持や目線、脚の振り上げ、背屈といった技能であり、

このように、各学年でどんな技を教え、どう評価するかを決め、学年・学級の児童の実態に合わせて指導過程を工夫していくようにしました。

前転で言えば頭越しや順次接触、脚の振り下ろし等の技能となります。それを学年の発達段階に合わせて効果的に与え、実感させてきました。



### (3) 効果的なかわり合いの工夫

個人克服型と言われる器械運動ではありますが、友達同士のかかわり合いは児童の意欲を高め、見合う視点を持たせれば、技能面での高まりも望めると考え、かわり合いに力を入れてきました。

かわり合いには以下のポイントがあると考えています。

#### ① グループニングの工夫

- ・生活班 ・めあてに応じた班
- ・人間関係に配慮した班 等

#### ② 場におけるかわり合いの工夫

- ・場での役割分担の確認
- ・見合う場所の指定
- ・めあての友達との共有
- ・互いに見合いできばえを知らせる
- ・良いかわり方の例示 等

#### ③ 技の視点をつかませるための発問の工夫

- ・与える(上手な子や教師の支援, ICT機器)
- ・選ばせる(A Bの視点の選択)
- ・探らせる(どういう体の使い方をすれば目的とする動きになるか等)



### (4) 学習カードの工夫

学習カードは、子どもたちが互いに見合いながら、学習を進めることができるように、技ごとにスモールステップを設定し、合格ポイントが書かれているものを作成しました。

ステップアップカードと呼び、子どもたちに浸透しています



### 3年学習カード (ステップアップカード)

倒立への道(7つのミッション)		合格	
今日のめあて		今日のポイント	
かべとがりつをしよう!			
A	1 かがねのかべのまわり	手が2回まわった	1
		手が3回まわった	2
		手が4回まわった	3
		しでいねにも、足をかべから遠くまで動かされた	4
B	3 川にひ	マット半回がまわった	1
		マットがまわった	2
		マットがまわった	3
		ひざがまわった(ひざがまわった)を動かす	4
C	5 かえるの足打ち	1回できた	1
		2回できた	2
		3回できた	3
		4回以上できた	4
D	6 から	足をもち上げて	1
		かべとがりつができた	2
		かべとがりつができた	3
		かべとがりつができた	4
7 かべとがりつ		足をもち上げて	1
		かべとがりつができた	2
		かべとがりつができた	3
		かべとがりつができた	4

## 4. 成果と課題

- 学校全体でマット運動に取り組めたことで、発達段階に応じた指導ができ、職員も自分の学年で教えていくべき指導内容を意識して教材研究、授業づくりに取り組むことができました。
- 学習カードを技ごとのスモールステップで作成したことで、子どもたちが自分たちでめあてに向けた学習活動が可能になりました。
- 見る視点を明確化したり、活動に応じてグループに配慮したりしてかわらせることで、子どもたちは、自分の技だけでなく友達の動きにも関心をもって運動することができました。
- かわり合いは、普段のクラスでの人間関係やグループ活動、言語活動のあり方によって大きく変わるため、体育だけではなく様々な領域でのかわり合いが大切となります。